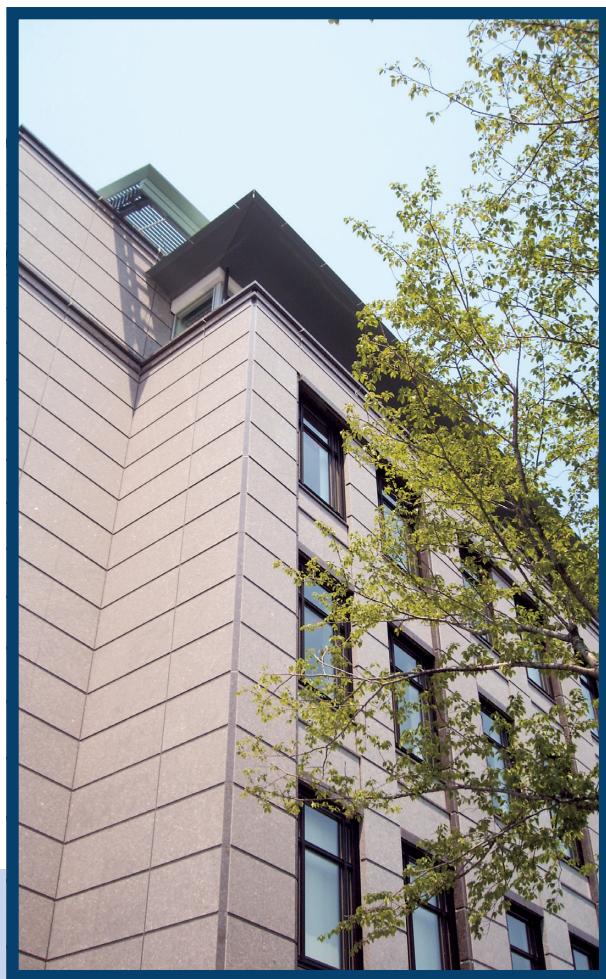


第171期 株主通信

平成29年4月1日 ▶ 平成30年3月31日



(本社外観)

Contents

株主の皆様へ	01
連結業績ハイライト	01
主要連結財務データ	02
セグメント別業績	03
特集 コラーゲンの種類と特徴	05
連結財務諸表	09
会社の概況／株式情報	10

株主の皆様へ

ごあいさつ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、ここに当社グループの第171期連結事業に関しましてご報告を申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用情勢・企業収益の改善、個人消費の持ち直しが続くなど、景気は緩やかな回復基調で推移しました。

当社グループにおきましては、コラーゲン・ケーシング事業が引き続き厳しい状況で推移したものの、健康志向を背景にコラーゲンへの注目が高まったことから、ゼラチン関連事業、化粧品関連事業が売り上げを伸ばしたこともあり、売上高は増収となりました。一方、利益面は、原料価格および燃料コストの上昇ならびに税金費用の影響もあり、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は減益となりました。

なお、在外子会社の日皮(上海)貿易有限公司および海寧日皮皮革有限公司を当連結会計年度より連結の範囲に含めております。

当社グループは、商品づくりの原点に立ち返り、顧客満足度、付加価値の高い商品開発に取り組むとともに、市場競争力の強化を推し進め、業績拡大を図ってまいります。株主の皆様におかれましては、何とぞ一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長

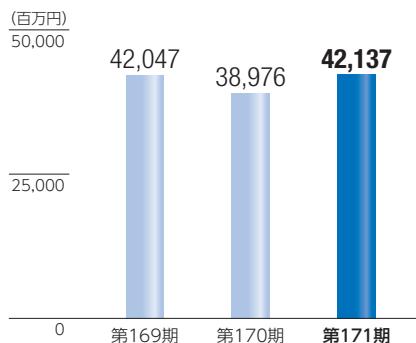
伊藤隆男

平成30年6月

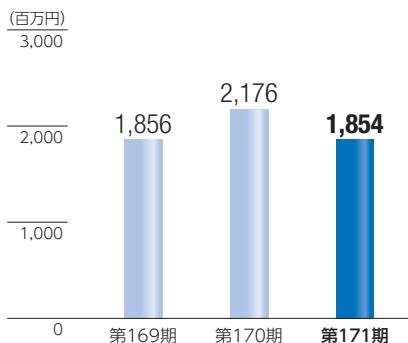
連結業績ハイライト

※ 当社は平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。当連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益および1株当たり純資産を算定しております。

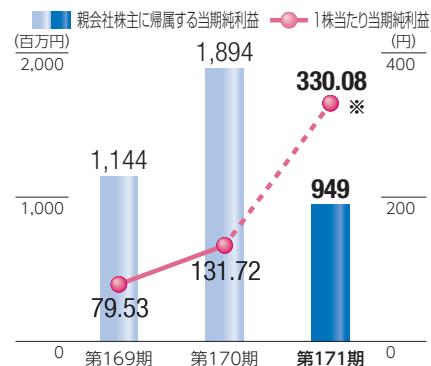
売上高



経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益/1株当たり当期純利益



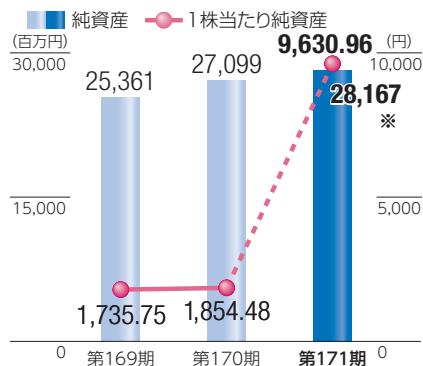
主要連結財務データ

項目		期別	第169期 (H27.4.1~H28.3.31)	第170期 (H28.4.1~H29.3.31)	第171期 (H29.4.1~H30.3.31)
売上高	(百万円)		42,047	38,976	42,137
経常利益	(百万円)		1,856	2,176	1,854
親会社株主に帰属する 当期純利益	(百万円)		1,144	1,894	949
一株当たり	当期純利益 (円)		79.53	131.72	330.08
	純資産 (円)		1,735.75	1,854.48	9,630.96
総資産	(百万円)		64,497	65,282	69,026
純資産	(百万円)		25,361	27,099	28,167

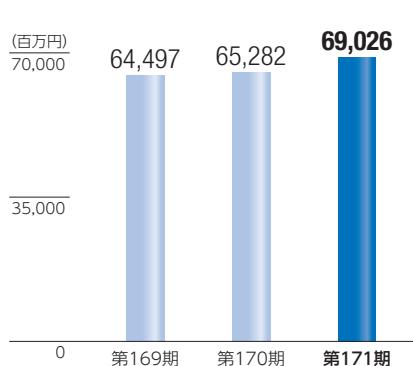
親会社株主に帰属する当期純利益は、税金費用と除却損の特別損失が影響し、前年比で大きな減少となりました。

一株当たり当期純利益および一株当たり純資産につきましては、平成29年10月1日付で普通株式5株を1株に併合しましたが、株式併合が期首に行われたと仮定して算出しております。

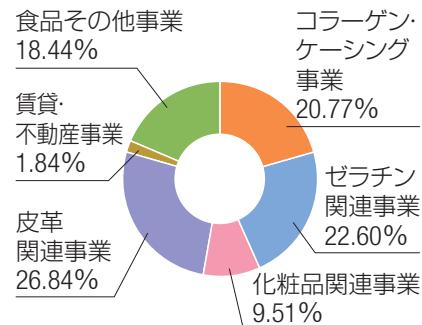
純資産／一株当たり純資産



総資産



セグメント別売上高(連結)



セグメント別業績

コラーゲン・ケーシング事業

売上高

8,752百万円

(213百万円増)
(前期比 102.5%)

営業利益

775百万円

(636百万円減)
(前期比 54.9%)

国内営業部門は、羊腸への回帰の動きがおさまらず、引き続き厳しい状況で推移しました。海外営業部門は拡販施策の成果もあり、売上高は前年を上回ったものの収益面では苦戦しました。両部門ともに厳しい状況が続くことが予想されますが、顧客ニーズに柔軟に対応できるよう営業体制を強化してまいります。

コラーゲン・ケーシングを用いたフランクフルトは、パーベキューなどに使用されることが多く、天然腸にはない均一なサイズや湾曲の無い形状が屋外での鉄板焼きにも取扱いやすいと好評を得ております。



▲コラーゲン・ケーシング

ゼラチン関連事業

売上高

9,521百万円

(970百万円増)
(前期比 111.3%)

営業利益

1,104百万円

(37百万円減)
(前期比 96.7%)

ゼラチン部門は、コンビニエンスストアを主とする惣菜用途の売り上げが減少しましたが、グミキャンディ市場、健康食品ソフトカプセル市場は堅調に推移しました。

ペプタイド部門は、「コラーゲン」が健康食品市場で定着したことで、その原料としてのコラーゲンペプチドの需要が国内外ともに大幅に伸長しました。特に北米、東南アジアへの輸出が好調に推移しました。当部門では、今後も積極的に展示会等に出展し売り上げ拡大を目指してまいります。

なお、本年1月より着手している新工場につきましては、2019年4月の稼働を予定しており、原料の確保と生産能力の向上に努めてまいります。



▲グミキャンディ

賃貸・不動産事業

売上高

775百万円

(1百万円増)
(前期比 100.2%)

営業利益

609百万円

(8百万円増)
(前期比 101.4%)

東京都足立区、大阪市浪速区ともに、賃貸事業は堅調に推移しました。当社が参画している「千住大橋駅周辺地区まちづくり計画」は順調に推移しております。今後の当社保有土地での開発計画につきましては、建設コストなどを考慮して柔

軟に対応し、暫定利用を行いながら収益の確保に努めてまいります。

なお、現在ポンテグランデTOKYOでは、街区内の下水道整備工事が行われており、同地区内のインフラ整備が推進されています。



▲ポンテグランデTOKYOの街区風景

化粧品関連事業

売上高

4,008百万円

(529百万円増)
(前期比 115.2%) ↑

営業利益

236百万円

(22百万円増)
(前期比 110.3%) ↑

健康食品部門は、好調に推移しました。
化粧品部門は、アンチエイジング分野の競争が激化するなかで、認知度向上を目的に新たなTVCMの提供を開始するなど、積極的な広報活動に注力しました。

本年3月には、「スキンケアクリーム」をリニューアルし「スキンケア ジェル NMバランス」を新発売しました。同商品の特長は「NMバランス」の「N」と「M」。角層深くまで浸透する小さなサイズのナノコラーゲン(N)と細胞にダメージを与える活性酸素を除去する働きのあるメディコラーゲン(M)が配合されています。



▲スキンケア ジェル NMバランス

皮革関連事業

売上高

11,308百万円

(1,818百万円増)
(前期比 119.2%) ↑

営業利益

557百万円

(279百万円増)
(前期比 200.7%) ↑

靴・袋物部門は、紳士靴用革は堅調に推移したものの、婦人靴用革は苦戦が続いております。一方、車輛部門はきめ細やかな顧客対応に注力し順調に推移しました。

皮革業界を取り巻く状況はますます厳しさを増しておりますが、取引先との連携を深めるとともに、主力商品の販路拡大や新規分野の開拓を推し進めてまいります。

なお、在外子会社の日皮(上海)貿易有限公司および海寧日皮皮革有限公司を当連結会計年度より連結の範囲に含めていることから、売上高、営業利益はともに増加しております。



▲海寧日皮皮革有限公司

食品その他事業

売上高

7,771百万円

(371百万円減)
(前期比 95.4%) ↓

営業利益

187百万円

(16百万円増)
(前期比 109.9%) ↑

大豆を中心とした穀物部門は、健康志向を背景に好調に推移しました。また、イタリア食材、BSE検査キット、輸入建材などの部門は、各市場の縮小を受けて減少しました。リンカー、化成品も厳しい環境で推移しました。

パイオ関連部門は順調に推移しました。iMatrixシリーズは、これまでのラミニン-511に加えて411および221のE8タンパク質を取り扱っており、さらなるラインアップの充実に努めています。

今後ますます市場拡大が見込める再生医療分野において、研究開発、製造、営業の各部門の連携強化に努めて販売量拡大を図ってまいります。



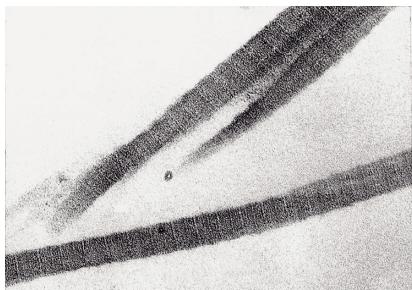
▲iMatrixシリーズ

コラーゲンとは

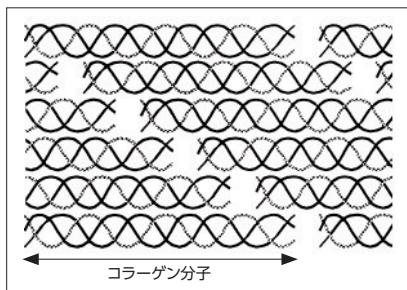
私たちのカラダを構成するタンパク質のうち、約3分の1を占めるのがコラーゲンです。コラーゲンは、細胞や組織を「つなげる」「支える」といった大切な役割を果たしています。

実際にヒトの皮膚のコラーゲンを電子顕微鏡で観察すると、図1のような線維構造をみることができます。この線維構造のなかでは、コラーゲン分子がたくさん並んでいます（図2）。

コラーゲンのアミノ酸配列はとても特徴的です。具体的には、グリシンというアミノ酸が2つおきに並んでいます。また、プロリンというアミノ酸が多く含まれています。さらに他のタンパク質ではほとんど見られないヒドロキシプロリンというアミノ酸も同じくらい多く含まれています。



■ 図1 コラーゲン線維の電子顕微鏡写真



■ 図2 I型コラーゲン線維の模式図

memo

アミノ酸「プロリン」と「ヒドロキシプロリン」が結合した「プロハイブ」には、細胞に新しくコラーゲンをつくるように指示をする働きがあります。この「プロハイブ」を配合したボディクリーム「プロハイブプラス ボディクリーム」が当社グループ会社より昨年11月に発売され、好評を得ております。



コラーゲンの種類

コラーゲンはカラダのあらゆるところで働いています。かつては、1種類のコラーゲンのみが確認されていましたが、1960年代に軟骨で異なるタイプのコラーゲンが発見されました。それを機に、最初に発見されたコラーゲンをI型、軟骨のコラーゲンをII型と命名し、以降、発見された順番に番号で呼ぶようになりました。

各型のコラーゲンは、カラダの各部位に存在するそれぞれの細胞で必要に応じて作り出されています。そのため、分布や役割が異なります。

■ 主要なコラーゲンの分布と役割

I 型	皮膚、骨、腱	体内に一番多いコラーゲン。皮膚や骨、腱の主成分です。とても丈夫で、骨のしなやかさや皮膚の弾力性を持たせる働きがあります。
II 型	軟骨	軟骨の主成分であるとともに目のガラス体に分布するコラーゲン。クッションの役割を果たしています。
III 型	皮膚、血管、子宮	皮膚や血管、子宮など、弾力のある部位や傷を治す部位に多いコラーゲン。大人になるとIII型の割合が減少します。
IV 型	基底膜	細胞シートの裏打ち、筋細胞、脂肪細胞の外側など組織の境界に少ないながらも普遍的に分布しています。
V 型	角膜、皮膚、血管	コラーゲンの細い線維に多く含まれています。目の角膜では、一定の太さのV型コラーゲンを多く含む細いコラーゲンの線維が丈夫で透明な組織を作っています。

※コラーゲンの種類は、哺乳類ではXXVIII型(28)まで報告されています。

memo

「ニッピコラーゲン100」は、I型が約90%、III型が約10%の割合で構成されています。



memo

「ニッピ非変性II型コラーゲン ARUCII (歩こうツツ)」は、体内のII型コラーゲンと同じ非変性構造を保ったサプリメントです。



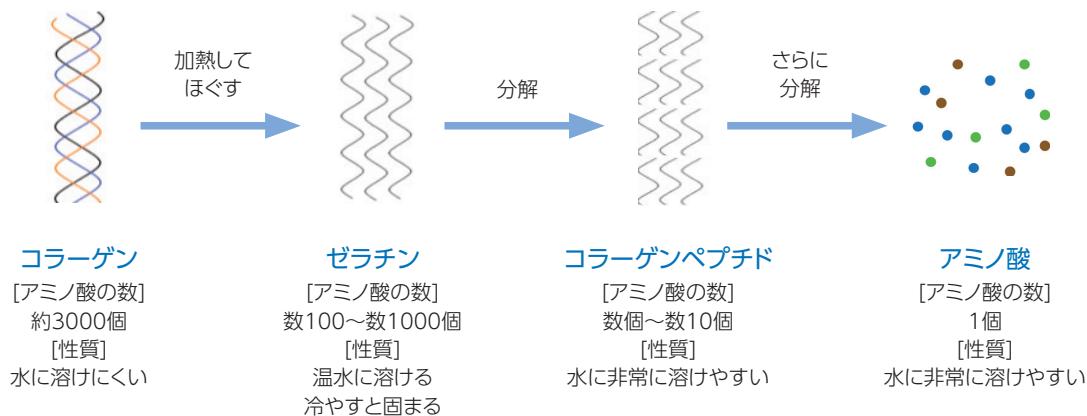
ゼラチンと コラーゲンペプチド



コラーゲンは、タンパク質の最小単位である「アミノ酸」の集合体。約1000個のアミノ酸が繋がった3本の鎖が、らせん状の構造をとったものが「コラーゲン」です。コラーゲンを加熱すると、このらせんがほどけて「ゼラチン」になります。そして、ゼラチンをさらに分解してアミノ酸数個～数10個に切り分けたものを「コラーゲンペプチド」と呼んでいます。

コラーゲンは、水に溶けにくい性質ですが、コラーゲンペプチドはさっと水に溶け、カラダへの消化吸収が高まります。

■コラーゲンは構造によって名前や性質が変わる



memo

「ニッピコラーゲン100」は、コラーゲンペプチド100%の粉末製品です。

memo

本来「コラーゲン」とはコラーゲンタンパク質のことを示す言葉ですが、最近では「コラーゲンペプチド」のことを示していることが多くみられます。

原料と特長



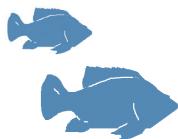
ゼラチンとコラーゲンペプチドの原料は、動物（主にウシ、ブタ、サカナ）の皮膚組織や骨・鱗から、酸やアルカリで処理して抽出します。抽出方法や原料となる動物の種類によって、その性質は異なります。

ゼラチンは固まる性質があるため、ゼリーを作るのに適しています。コラーゲンペプチドは水に良く溶け、また、ゼラチンのように固まらないので、飲料などあらゆる食品に使用されています。

■当社におけるゼラチンおよびコラーゲンペプチドの主要な原料とその主な特長

	原料由来	抽出方法	特長
ゼラチン	ブタ	酸処理	色調良好。あらゆる食品に使われています。
		アルカリ処理	臭いが少なく、あらゆる食品に使われています。
	ウシ	アルカリ処理	臭いが少なく、あらゆる食品に使われています。
コラーゲンペプチド	原料由来	グレード	特長
	ブタ ウシ サカナ	上級品	無味無臭の白色粉末で、そのまま召し上がる製品やコラーゲンペプチドの使用量の多い処方に適しています。
		スタンダード品	上級品、汎用品の中間に位置する粉末製品です。飲料、ゼリー製品などに適しています。
汎用品		スープ、たれ、カプセル、タブレット等、一般食品に幅広く使われています。	

※当社のコラーゲンペプチドのグレードは、製品の色調、味覚、臭いで「上級品」「スタンダード品」「汎用品」に分類しています。



memo

最近、サカナ由来（鱗・皮）のコラーゲンペプチドがとても注目されています。

当社のサカナ由来コラーゲンペプチドは、ティラピア（淡水魚）の皮・鱗や、アカマツダイ（海水魚）の鱗からコラーゲンを抽出しています。

連結財務諸表

連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科 目	第170期	第171期
	（平成29年3月31日現在）	（平成30年3月31日現在）
資産の部		
流動資産	21,202	25,044
固定資産	44,067	43,973
有形固定資産	38,921	38,737
無形固定資産	186	177
投資その他の資産	4,959	5,058
繰延資産	13	7
資産合計	65,282	69,026
負債の部		
流動負債	20,398	25,024
固定負債	17,785	15,834
負債合計	38,183	40,858
純資産の部		
株主資本	16,596	17,675
その他の包括利益累計額	10,080	10,028
非支配株主持分	421	463
純資産合計	27,099	28,167
負債及び純資産合計	65,282	69,026

連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	第170期	第171期
	（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）	（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）
売上高	38,976	42,137
売上原価	29,626	32,478
販売費及び一般管理費	6,994	7,653
営業利益	2,356	2,006
営業外収益	172	166
営業外費用	352	318
経常利益	2,176	1,854
特別利益	506	30
特別損失	347	160
税金等調整前当期純利益	2,336	1,724
当期純利益	1,927	994
親会社株主に帰属する当期純利益	1,894	949

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	第170期	第171期
	（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）	（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,253	1,717
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,420	△602
財務活動によるキャッシュ・フロー	△609	△590
現金及び現金同等物に係る換算差額	△17	14
現金及び現金同等物の増・減(△)額	205	538
現金及び現金同等物の期首残高	3,886	4,092
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	489
現金及び現金同等物の期末残高	4,092	5,120

会社の概況

(平成30年3月31日現在)

■ 会社の概要

商号	株式会社ニッポ
設立年月日	1907年(明治40年)4月1日
資本金	4,404百万円
従業員数	630名(連結対象会社合計)
本社	東京都足立区千住緑町1-1-1
主な事業内容	コラーゲン・ケーシング、ゼラチン、その他コラーゲン関連製品の製造販売および皮革関連製品等の販売
主要取引銀行	みずほ銀行 三菱東京UFJ銀行 三井住友銀行 みずほ信託銀行

(注) 株式会社三菱東京UFJ銀行は、平成30年4月1日付で、株式会社三菱UFJ銀行に商号変更いたしました。

(平成30年6月28日現在)

■ 取締役および監査役

代表取締役社長	伊藤 隆 男
常務取締役	河村 桂 作
取締役	小林 祥 彦
取締役	伊藤 政 人
取締役	橋爪 秀 知
取締役	大浦 顕 逸
取締役(社外)	村上 勝 彦
監査役※	吉田 安
監査役(社外)※	早山 徹
監査役(社外)	大倉 喜 彦

※は常勤監査役

株式情報

(平成30年3月31日現在)

■ 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社リーガルコーポレーション	415	14.45
大成建設株式会社	222	7.74
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	136	4.76
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	118	4.12
中央建物株式会社	116	4.05
東京建物株式会社	100	3.48
株式会社みずほ銀行	69	2.43
みずほ信託銀行株式会社	60	2.09
特種東海製紙株式会社	50	1.74
RE FUND 107-CLIENT AC	43	1.49

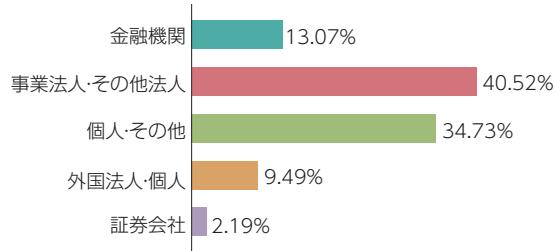
(注) 1. 千株未満は切り捨てて表示しております。

2. 持株比率は、自己株式(12,437株)を控除して計算しております。

■ 株式の状況

発行可能株式総数	11,550,000株
発行済株式の総数	2,876,563株
	(自己株式12,437株を除く)
株主総数	2,271名

所有者別持株比率



平成29年10月1日付で単元株式数の変更(1,000株から100株に変更)および株式併合(5株を1株に併合)を実施いたしました。

ホームページのご案内

当社ホームページでは、製品情報、IR情報など様々な情報を掲載しております。



<http://www.nippi-inc.co.jp/>

株主優待

平成30年3月31日現在の株主名簿に記載された、1単元(100株)以上を保有されている株主様を対象といたします。

●「ニッピコラーゲン100」1箱(110g×3袋)



7月上旬の発送を予定しております。

●お問い合わせ先
03-3888-6651

株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
定時株主総会 基準日	毎年6月 定時株主総会については3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定める
配当金受領株主確定日	3月31日(中間配当を行う場合は9月30日)
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 (郵便物送付先) (電話照会先)	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 0120-288-324(フリーダイヤル)
公告方法	電子公告により当社ホームページに掲載 ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載

【株式に関するお手続きについて】

1. 証券会社等に口座をお持ちの場合、原則として住所変更や買取請求などの株主様の各種お手続きは、ご利用の証券会社等を経由して行っていただくこととなりますので、証券会社等宛ご連絡をお願いいたします。
2. 証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)、「みずほ証券」本店・全国各支店・プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)、「みずほ信託銀行」本店・全国各支店でお取り扱いいたします。
3. 支払明細の発行に関するお手続きにつきましては、上記「郵便物送付先」宛お問い合わせください。
4. 未払配当金のお支払につきましては、「みずほ信託銀行」本店・全国各支店、「みずほ銀行」本店・全国各支店にお問い合わせください。なお、「みずほ証券」ではお取り次ぎのみとさせていただきます。